

「2020年7月豪雨 緊急支援募金」 支援団体事業報告書

団体名 公益社団法人シャンティ国際ボランティア会

代表者名 若林 恭英

※別途ご用意された報告書がございましたら、添付のうえご提出いただいても構いません。その場合、以下各項目欄に「別紙参照」と「該当ページ数」をご記入いただくようお願いいたします。

①事業の目的	<p>2020年7月4日に九州南部を襲った集中豪雨により、熊本県の球磨川を中心に大きな被害が生じ、福岡県では大牟田市、久留米市を中心に約5,000棟に住家被害と2名の死亡、熊本県では人吉市、芦北町、球磨村を中心に8,000棟以上の住家被害と65名の死亡が発生した(7月31日時点)。新型コロナウイルス感染予防のため、支援の受け入れには地域のばらつきがあり、早期復興に影響をきたす可能性が生じた。</p> <p>上記をうけて当会は7月20日から現地で被害状況の調査と緊急救援物資の配布を行った。調査の結果、新型コロナウイルスの影響で現地の人手不足が顕著であり、発災から1か月経っても泥かきなどの復旧作業のニーズがあること、被災した高齢者が孤立しやすい状況にあること、再開し始めた学校では学用品や図書などが不足していることが判明した。そこで、熊本県の人吉市、球磨村、福岡県の大牟田市において、①ボランティアバス運行による人手不足の緩和、②傾聴を通じた高齢者に対する心のケア、③小中学校に対する学用品および蔵書支援の実施を決定した。</p>
②助成金の使途と成果、特筆事項等	<p>2020年7月下旬に被災地を訪問し、避難生活に必要なが見落とされがちな女性用品(生理用ナプキン、パンティライナー、化粧水、ボディクリーム)や、衛生用品(体拭きシート、綿棒、爪切り)などを緊急救援物資として避難所に配布した。物資購入に助成金を活用した。</p> <p>①現地の団体(れんげ国際ボランティア会)と連携し、熊本県玉名市から被災地の人吉球磨方面へのボランティアバス運行を8月下旬に開始した。中型バスのレンタルや非接触型体温計や消毒液などの感染症予防対策に助成金を活用した。ボランティアバス運行により、玉名市やその近隣在住者が被災地でのボランティアに参加した。</p> <p>②福岡県大牟田市において、現地の民間ボランティアセンターの補助をしながら、高齢者に対する傾聴や生活再建のための相談会を開始した。感染症予防のためのマスクや消毒液購入に助成金を活用した。コロナ禍において外からの支援が入りにくいことや、家屋被害が外から見えないことなども相まって、復興への動きが非常に遅く、被災者へのケアも限定されている。現地の支援団体と協力しながら、引き続き状況の改善を目指す。</p> <p>③熊本県南部の学用品の費用に助成金を活用した。芦北町の佐敷中学校と球磨村の渡小学校に、すぐに学習のため使用できるキャンパスノート、えんぴつ、色鉛筆をセットにして贈呈した。</p> <p>その他、職員の現地滞在費用や人件費、移動費に助成金を充てた。</p>

記載上の注意点

①行は適宜、追加・削除していただいても構いませんが、報告は1ページで収まるようにお願いします。